

米国 前月の反動により多くの業種で生産鈍化(18年3月鉱工業生産)

: 2018年4月19日(木)

～基調は緩やかな拡大傾向～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治

03-5221-5001

鉱工業生産			製造業 (NAICS)	鉱業	公益	ハイテク 関連	除ハイテク 関連	自動車関連	設備稼働率 全産業	製造業 (SIC)	生産能力
17/03	+0.6	(+1.2)	▲0.5	+0.2	+9.1	+0.1	▲0.5	▲2.8	+75.5	+74.3	+0.0
17/04	+1.0	(+1.9)	+1.1	+1.1	▲0.2	+1.7	+1.2	+3.6	+76.2	+75.1	+0.0
17/05	▲0.0	(+2.1)	▲0.4	+0.6	+2.4	+0.2	▲0.6	▲2.1	+76.2	+74.8	+0.0
17/06	+0.1	(+1.8)	+0.1	+1.0	▲1.5	+0.2	+0.2	▲0.6	+76.2	+74.8	+0.0
17/07	▲0.1	(+1.4)	▲0.3	▲0.2	+0.9	▲1.3	▲0.2	▲3.8	+76.1	+74.6	+0.0
17/08	▲0.4	(+1.1)	▲0.2	▲0.6	▲1.5	+0.4	▲0.3	+2.3	+75.7	+74.4	+0.1
17/09	▲0.0	(+1.2)	▲0.1	+1.3	▲0.8	+0.9	▲0.1	+1.3	+75.7	+74.2	+0.1
17/10	+1.5	(+2.7)	+1.3	+1.4	+3.2	+1.7	+1.3	+0.9	+76.8	+75.2	+0.1
17/11	+0.5	(+3.4)	+0.3	+2.0	+0.4	+1.4	+0.3	▲0.2	+77.1	+75.3	+0.1
17/12	+0.5	(+2.9)	+0.1	+0.8	+2.7	+1.6	+0.0	+0.8	+77.3	+75.3	+0.1
18/01	▲0.2	(+3.0)	▲0.4	▲0.9	+2.1	▲0.1	▲0.6	▲0.5	+77.1	+74.9	+0.1
18/02	+1.0	(+4.4)	+1.5	+2.9	▲5.0	+0.5	+1.7	+3.9	+77.7	+76.0	+0.1
18/03	+0.5	(+4.3)	+0.1	+1.0	+3.0	+1.2	▲0.0	+2.7	+78.0	+75.9	+0.2

(注)カッコ内は前年比

3月に鉱工業生産が 前月比+0.5%、製造 業生産は同+0.1%と ともに鈍化した

18年3月の鉱工業生産は、前月比+0.5%（2月同+1.0%）と鈍化した。市場予想の同+0.3%を上回った（10-2月合計で0.1%p上方改定）。公益事業が気温の低下を背景に前月比+3.0%と上昇に転じた。一方、製造業は、前月の大幅な伸びの反動もあって前月比+0.1%と鈍化した。市場予想と一致したが、10-2月合計で0.1%p上方改定されており予想よりも若干良い内容。製造業生産は、貿易摩擦の激化を警戒しながらも、内外需要の拡大によって緩やかな拡大基調を維持した。また、鉱業は前月比+1.0%と前月の反動増もあり鈍化したものの、原油価格の上昇により活動を活発化させている。米国の生産活動は、昨年ハリケーン襲来、その後の復旧・復興、1月の暴風雪によって変動が大きくなっていったが、漸く落ち着き始めたようだ。

業種別では、石油・石炭が増加に転じたほか、コンピューター・電子機器が加速した。また、自動車・同部品が鈍化したものの高い伸びを維持した。一方、加工金属、一般機械、電気設備・部品、その他耐久財、食品・飲料・タバコ、繊維、アパレル、印刷・同サポート、プラスチック・ゴム製品が減少に転じたことに加えて、木材、非鉄、一次金属、航空機・その他輸送設備、家具・関連製品、紙、化学、その他製造業が鈍化した。

稼働率では、設備投資の持ち直しによる生産能力の拡大が続く一方で、生産の拡大傾向を背景に鉱工業全体が78.0%（前月77.7%）と上昇した（市場予想77.9%）。一方、製造業は生産の大幅な鈍化によって75.9%（前月76.0%）と低下した。

3ヶ月移動平均・3ヶ月前対比年率では、製造業生産が+3.1%（前月+3.8%）、鉱工業生産が+4.5%（前月+6.2%）と減速したものの、拡大モメンタムは強さを維持した。ハリケーンの復旧・復興、気温の変化など一時的な要因の剥落によって、生産活動は今後緩やかな拡大基調に回帰すると見込まれる。

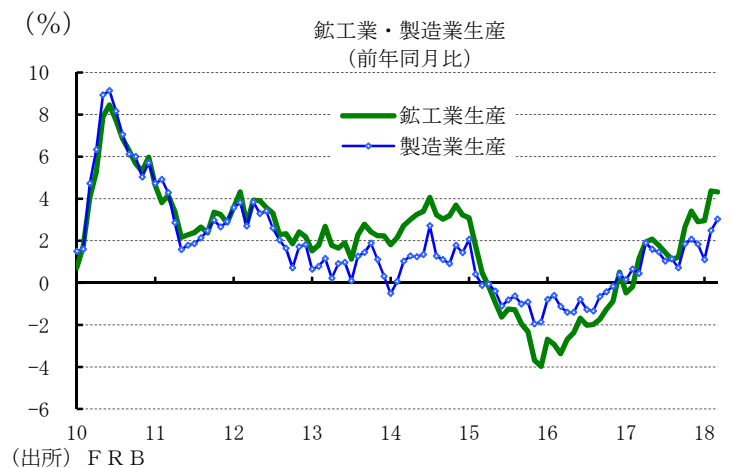
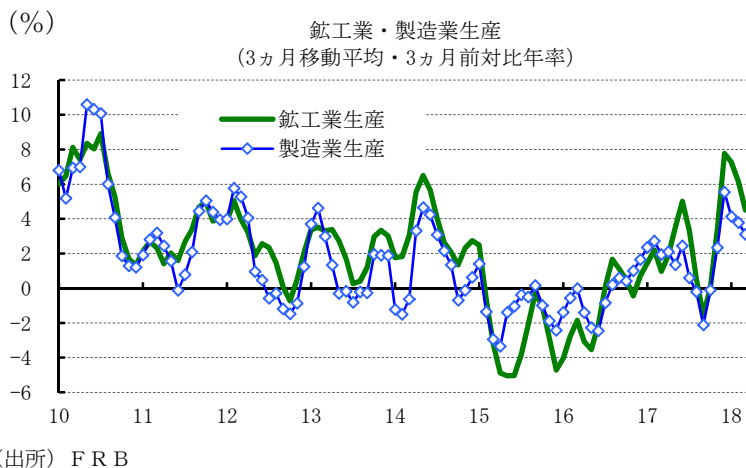
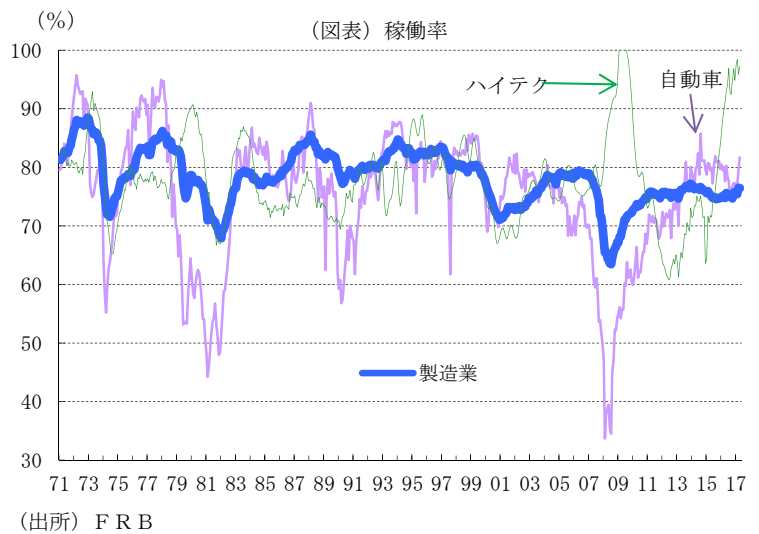
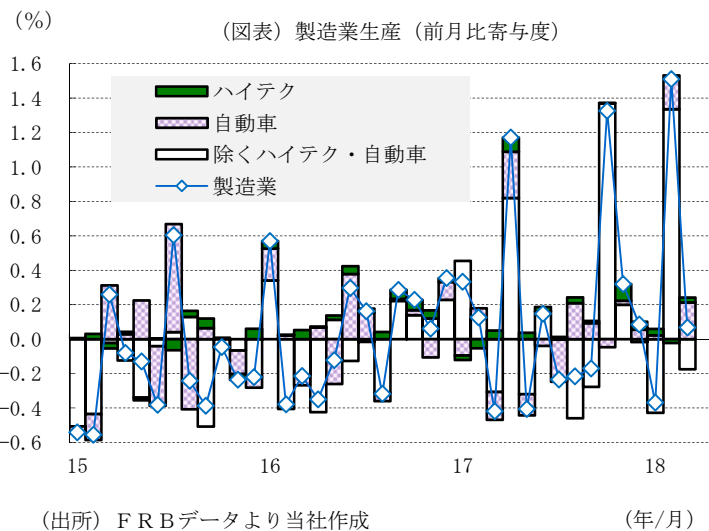
1-3月期の生産活動は小幅鈍化も堅調さ維持

四半期でみると、1-3月期の鉱工業生産は鉱業、公益事業、製造業の減速で前期比年率+4.5%と10-12月期の同+7.8%から鈍化した。製造業生産は1-3月期に前期比年率+3.1%と10-12月期の同+5.5%から小幅減速した。ただし、製造業生産は、ハリケーン襲来による落ち込みの反動や復旧・復興需要の健在化によって10-12月期に大幅増となった影響であり、基調の変化を示すものではない。製造業では、耐久財が前期比年率+5.5%と前期と同率の伸びとなった。耐久財では、一般機械、その他耐久財が縮小したものの、自動車・同部品、加工金属、木材が加速したほか、航空機・その他輸送設備、電気設備・部品が増加に転じた。また、一次金属、コンピューター・電子機器、家具は鈍化した堅調さを維持した。

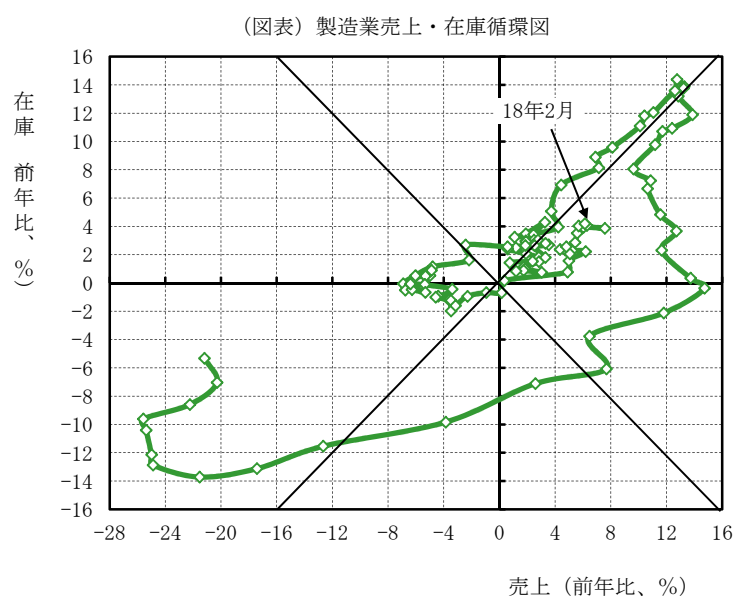
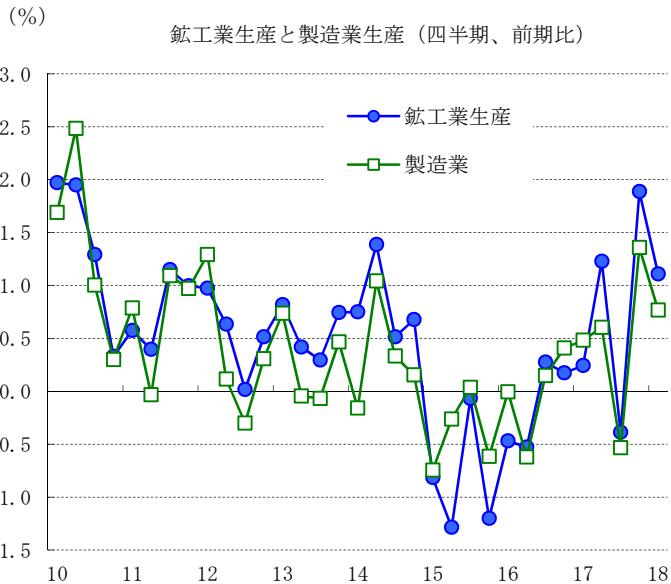
非耐久財は、前期比年率+1.1%（10-12月同+5.8%）と鈍化した。非耐久財では、食品・飲料・タバコ、繊維が加速し、アパレル、印刷・サポートが増加に転じた一方、紙が減少を続け、石油・石炭製品、化学が減少に転じた。また、プラスチック・ゴムが鈍化した、

18年の生産活動は小幅加速

18年の生産活動は、高い水準のドル（実効レート）や貿易摩擦によるコスト増加の影響を受けながらも、内外需要の拡大傾向の持続や、原油価格が昨年よりも上昇すると予想されること、在庫に過剰感がないこと等を背景に小幅加速すると見込まれる。前年比での予想は、製造業生産が18年+2.4%（17年+1.2%）、鉱工業生産が+3.4%（+1.6%）。

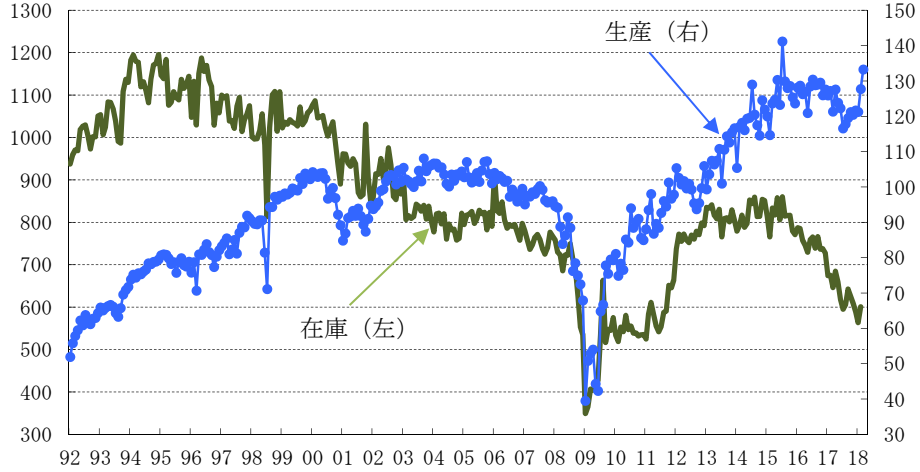


本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。



(出所) F R B

(1000台) (図表) 自動車の生産と在庫 (2002年=100)



(出所) F R B、米商務省

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。